

第166回 令和8年1月30日（金）

「格差の終焉について。」

狩猟社会であった縄文時代は食糧を保存することはできませんでした。肉は腐ってしまうので必然的に仲間で分けることになります。ここに格差はありません。

稲作が伝來した弥生時代から食糧が保存できるようになりました。稲作をどのように行えば効率が良いのか、生産手段と言われる道具が開発されるようになり多くの食糧を保存できる者とそうでない者の間に格差が生まれました。

富める者はさらに領地を増やし、自分では耕すことができないほどの田畠を開発します。そこで自分の富を使って持たざる者の時間を買うことにしました。貧しい者は富める者からお金をもらって（その頃は貨幣ではなく食糧そのものだったと思います）、その広大な土地を耕します。

富める者は働くのは貧しいものに任せ、できあがった収穫物の何割かを対価として支払ったのち、さらに貯蓄を増やしていました。こうして格差は埋まることなく広がっていったわけです。

現代にも格差は続いてきたわけですが、ここでA.I.やロボットが登場してきました。今までお金を払って労働者の時間を買い取ってきたのですが、これからはそれをA.I.が担うことができるようになります。必然的に労働者は仕事を失うこと多くなります。

ただしA.I.は人件費がいらないので貧しい人々にも恩恵があるかもしれません。それまで医療は経済的な格差があり、高度な治療を有名な医師が担ってきましたが、A.I.による医療は人を選びません。

仕事が減ったとしてもお金がかかるなくなる社会が実現できれば人々は生活できます。またお金の必要性が低くなることで貨幣経済が崩れ、格差がなくなっていくかもしれません。

富める者が格差によって奪い取ってきた貧しい者の時間が、本来自分が持っていた時間として取り戻すことができるようになります。働く時間が短くなった分、自由に生きることが可能になります。

貨幣経済が崩壊すると経済的な格差はなくなります。人々の暮らしは縄文時代に回帰していくかもしれません。

ここまで到達するにはものすごく長い時間がかかると思いますが、A.I.やロボットが人間を根本から大きく変えてしまう可能性があることは確かだと思います。その世界がユートピアなのかデストピアなのかわかりませんが、A.I.がシンギュラリティに到達する前の今こそが考えるときなのではないかと思います。もう少ししたらポイントオブノーリターンになってしまうような気がしています。

守るべきものや変わるべきものは何なのか、考えることが必要です。